

内外新報

第千八百號



西垣文庫

特

文庫 10

7352

12



特 文庫10
7352
12



内外新報第廿八號

慶應四年五月四日

閏四月十七日の夜日花津科野所河内郡大桑村宿務と
と中家等善提与境内多羽に表林有之木之打敷^十ハ
場不へ脱走兵凡不捨人程駕^二籍^三至^四以^五至^六翌^七十八日今
市宿滞留の土州勢凡不捨人程宛交代^ハく^ニ巡^三邏^四以
多^一行^二心^三形^四く^五宿^六務^七与^八境^九内^十下^{十一}を^{十二}通^{十三}行^{十四}せ^{十五}し^{十六}形^{十七}か^{十八}く^{十九}脱^{二十}走^{二十一}
方^一儀^二に^三起^四り^五を^六敷^七く^八砲^九發^十以^{十一}及^{十二}び^{十三}以^{十四}故^{十五}官^{十六}軍^{十七}敵^{十八}に^{十九}打
負^一分^二日^三宿^四之^五引^六互^七以^八即^九死^十七^{十一}人^{十二}と^{十三}負^{十四}六^{十五}人^{十六}有^{十七}之^{十八}中^{十九}脱^{二十}走^{二十一}

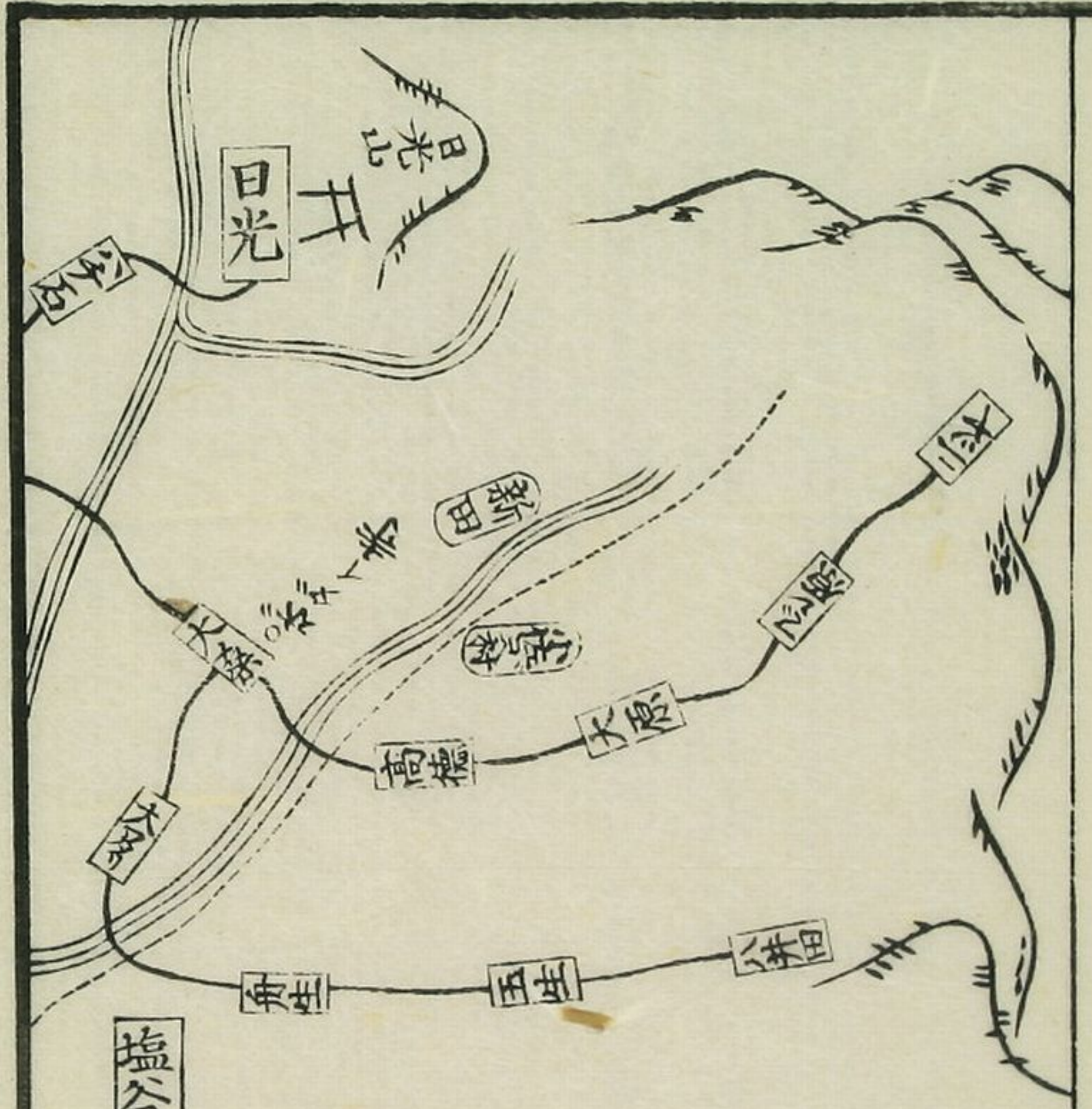
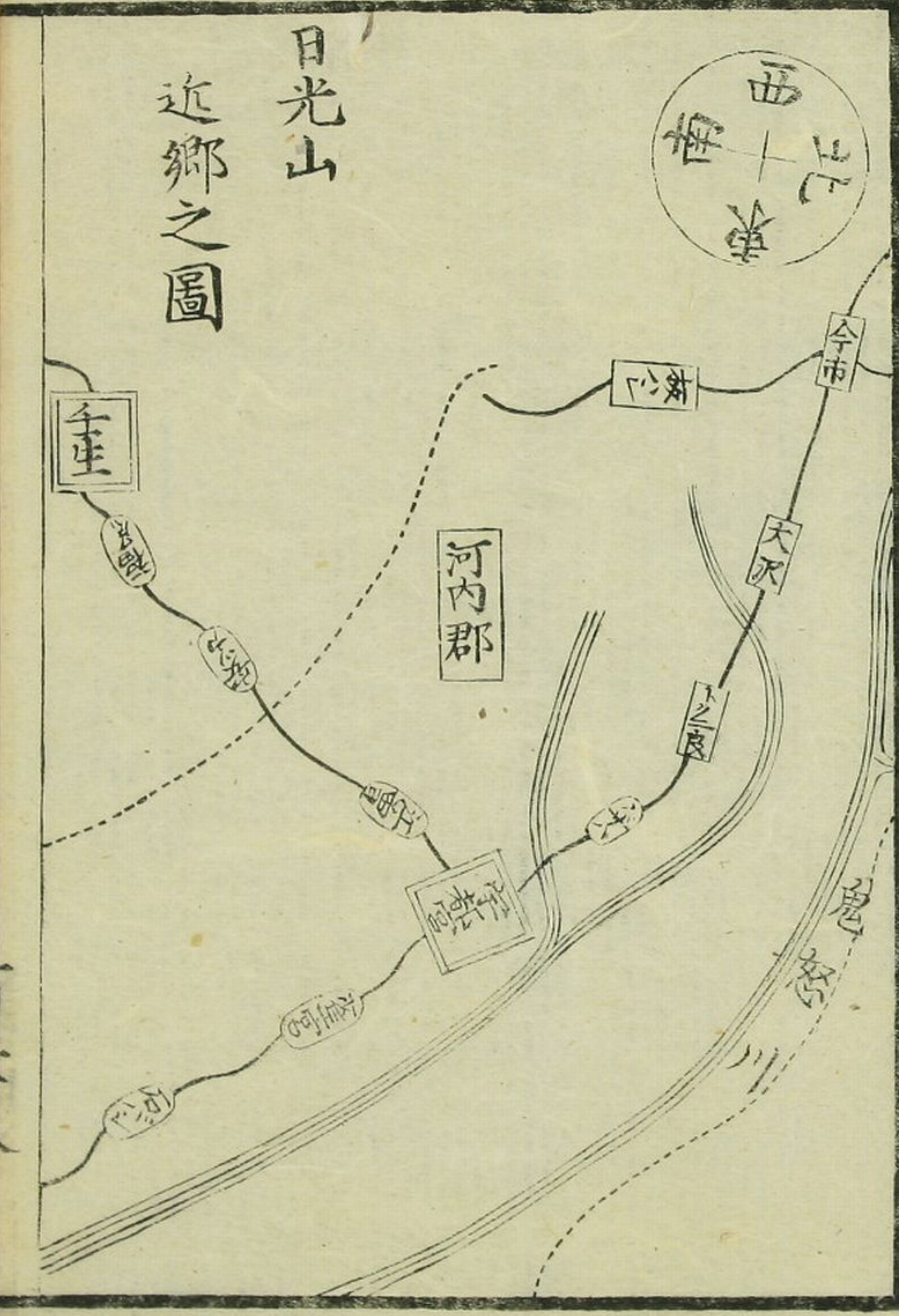


更より同郡を紫新田に引揚る

同十九日新田に敗走に付去勢勢上を急に早打を以て
日光山の屯營せし彦根勢に援兵を乞ひ軍儀を狭し
去勢の人殺合せく六百人侘同日曉に退り出張を紫
新田に押向け砲撃以多し以て晩に兵將も去勢有極
以て一時に窮乏を同圍攻を新田佐越村の方へ逃れ
るを官軍針策といふ付り此勝に去勢退れり志不
るに小佐越を紫新田を村に入合せりどしどし野原
有る何の間に設けり人長指を間幅之間程の陥陣
三ヶ所掘り上りハ其並に設けり官軍此下す退

味方しが忽ち地中に陥入り其愕然と驚く折しも側の
藪蔭又も山中上を伏兵逸回も於て起るを去勢三方上
を取圍り打急けるよそ官軍危急にお見入之を救え
んと後援の兵繰出せり又途中に去勢進退自中
ありに之を降すに討ふに遂に大敗走と成り付
死廿八人子負八十人陣是の患極を生じ相口し以て
更上り去勢勢ハ今市宿彦根勢ハ日光山へ引揚り去
勢之始末守勢官在河江沙汰に及び退り人殺出張の
よし相聞也是日晚去勢方生擒口十人余兇怒川を渡
り大原宿原宿在村に退陣せり

日光山
近郷之圖



塩谷郡

或ル新聞中
本月廿日ノ
戦事ヲ載ス
トイヘ氏廿
日ハ戦争ナ
カリシ

同廿二日脱走兵三百人後之國味へ出張右征伐として
上野前橋高崎等處の三處人殺死す八百人殺す
縁出し以中

○閏四月十七日清籠書

今為諸國大小之林秋に於て林佛涅槃の義に法廢止又
相成以に別當社僧之輩に還俗の上林自社人等々林
号に相結し林道をめぐる勤仕不致以若尔を捨去るへ
こそあり且に佛教信仰に還俗の義不致以心之軍に林
勤相山を退す中此事

但還俗の力の僧位階官互上勿偏に以官位の義に

退く 寺少法了有之小高今之官服の風形為悞
不淨衣白髪也長用勤仕不致以事

是迄林藏相如所居小者之席唯之義に去り伺出マ中
以之上寺久調之上以之 寺少法了有之小事

後四月

書懷

失名氏

漢家自一解權勢逐鹿諸侯如是多、往日嘗君今有否、空
彈長鉞唱悲歌、

同日月廿六日曉六時以津門御勢遠町園宿屋を去へ
 行者共知事は兵士十人程裏表より押し入る小銃を打
 かけ白刃を捲き切入しに朽し由經夜の時方あるは
 尚直の士由熟睡して不意に討たるは忙
 慌きを以て口を人々を被りししが急ぐ用意や有
 るん衆中の士退くは狂衆を一月に切ら出さるる
 く防戦し遂に賊を邸外に逐出し蹤跡なきに
 歸らざるもの風多し其後賊を捕獲しや否や
 但し右の同属國に家来中より君侯を奪ひ去ら
 んとて官軍の士と打交り切せしは君侯の何方へ

〇を退かせし居合せがとの風況あり

〇補遺

四月廿九日野所へ脱走の兵隊長某の策謀はく内所
 於賀那野に村地内十文字とて往還有る日光山より
 東に一里半許隔るは地所へ喰遠の胸壁と築き大砲
 を備へ防柙の事若くは胸壁と築き大砲を備へ
 振土抄勢は陣面十人許はく押しよせ来るは地所
 居合せする兵士後二十日不人終る陣笠を土手に
 のせをき往還の古木枝葉を以て蔭を隠し居るは
 官軍士を以て頻りに砲撃し十分は近するは

分と針を井伊家隊長と見しき騎馬の者を人進と来
るに矢を打あめり果をまらざる憤戦しりまに官
軍方即死女三人を負七人及びあつて日歎今市宿へ
引退く脱走方かまを無き人のまにりて日光山へ引揚
りて或人の信をまらざりて實に寡を以て衆に敵し遂に之
に克つ隊長某の勝畧想ふべし

紙數限を以て以て廿一日の戦事を脱き又少しく
忌諱ありたりて因りてその二三を刪去し他日次篇
に記載せらるべし

